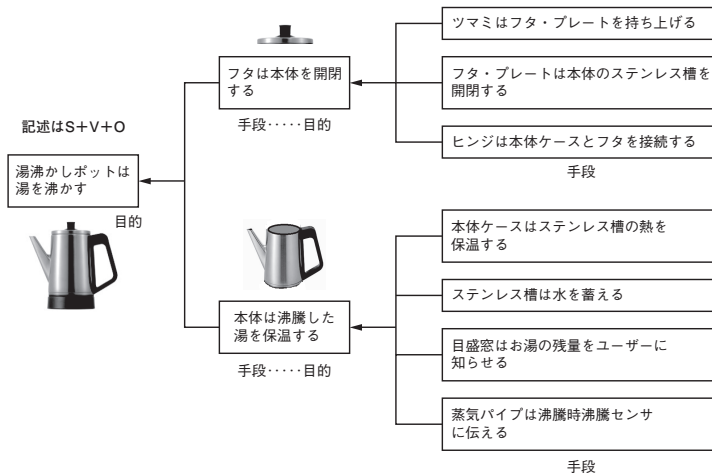


図解

効率的な製品開発を支援する 「機能ベース」の課題分析法



開発現場では、日々、製品開発を効率的に進め、優れた製品を生み出す努力が続けられている。しかし、経験や勘に頼った取組みでは開発の途中で度々不具合が発生したり、想定以上のコストがかかったりするなど、後戻りしたり、モグラたたきの状態に陥ることを経験した読者も多いのではないだろうか？

このような現状を変革するために有効なアプローチの1つとして、本特集では“機能”というキーワードを軸に科学的手法を使った効率的な製品開発の進め方を提案する。ここでの“機能”とは、システムの働きを記述したものを意味する。たとえば自動車の機能は“人を移動させる、そのために走る、曲がる、止まる…”といったことを指す。この“機能”を起点に課題を多面的な視点でシンプルに整理して着手し、問題解決の発想を得るまでの科学的アプローチの方法について具体的な事例を交えながら図解で紹介していく。

筆者

アイデア 緒方 隆司*

*おがた たかし：プロジェクト・コンサルティング担当ディレクター シニアコンサルタント

オリンパスにて、磁気デバイス、光通信デバイス、プリンターなどの開発業務やマネジメントに携わる。その後科学的アプローチを使った開発効率向上の全社推進業務を先導し、1,000件以上の事例に適用した。2016年にオリンパスを退職し、現在に至る。著書に「製品開発は“機能”にばらして考えろ」(日刊工業新聞社刊)。